

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 6月 23日

【評価実施概要】

事業所番号	2277102361
法人名	医療法人社団 長啓会
事業所名	グループホーム 双葉の家
所在地 (電話番号)	〒435-0032 浜松市南区古川町234番地 Tel. 053-427-1525

評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成19年10月29日

【情報提供票より】(平成19年10月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 11 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 11 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	11.2 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨	造り
	1 階建て	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,000 円	その他の経費(月額)	17,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

(4) 利用者の概要(平成20年 10月 8日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	7 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 80.8 歳	最低 60 歳	最高 97 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	みのりハートクリニック、加藤歯科診療所
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム双葉の家」は浜松市の南東部に位置し、医療法人社団・長啓会が運営するグループホームである。平成16年11月に設立されてから3年余が経ち落ち着いた雰囲気の中にも、管理者を中心としてケアの質的向上を目指したホーム独自の活気が見られる。職員育成のための研修の充実をはじめ利用者がゆったりと楽しく、自由にありのまま、仲間と一緒に暮らすことを理念として、利用者、その家族のために「双葉で作るやさしい介護」をめざしている。また、地域との交わりも重要視され、地域行事への積極的参加や地域住民を対象にした認知症の理解や接し方の勉強会を開催するなど、地域にも貢献しているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価実施後、改善に向けて職員会議や運営推進会議において取り組みが見られ、指摘のあった項目は改善が図られている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価項目を職員に提示して話し合いを行い、評価の意義を再認識する中でケアサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、外部評価で明らかになった課題について報告、検討を行っている。また、各家庭において介護の必要な人達を募集し、オムツの替え方、体位移動について講演するなど運営推進会議を生かした取り組みが見られる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会は設立されていないが、敬老の日には家族を招いて食事会を開催し、その席上において意見を聞きだしたり、家族の面会時にも意見を聞きだして運営に反映させるようにしている。外部評価のアンケート調査においては、よい点・優れている点はあるものの改善して欲しい点、気になる点は見受けられなかった。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域住民の一員として自治会に入会し、地域の祭り等に積極的に参加している。また、散歩の際には、野菜や果物をいただくなど地元の人々との交流も盛んに行われている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく生活することを支えるケアを目指して、ゆったりと楽しく、自由にありのまま、仲間と一緒に暮らすことを理念として掲げ日々のケアサービスの中に取り入られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月開催の会議や週1回行っている朝礼の場等において、理念について話し合い共有化を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の一員として自治会に入会し、地域の祭り、行事等に積極的に参加している。また、散歩の際には、野菜や果物をいただくなど地元の人々との交流も盛んに行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価実施後、改善に向けて職員会議や運営推進会議において取り組みが見られ、指摘のあった項目は改善が図られている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、外部評価で明らかになった課題について報告、検討を行っている。また、各家庭において介護の必要な人達を募集し、オムツの替え方、体位移動について(講演するなど運営推進会議を生かした取り組みが見られる。	○	19年は4回ほどの開催にとどまったが、2ヶ月に1度の開催をされるよう努力されたい。また、介護の必要な家庭に対する介護教室を更に発展されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	浜松市に区制がひかれたことから南区役所が近くなり、行き来も従来以上に増し、事業所の実情やケアサービスの取り組みについて折に触れ伝え協力も得ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月定期的に利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理等について家族に報告しており、家族等の面会時においても利用者の様子や今後の予定などを報告している。	○	19年12月から家族等への便りとして「和～なごみ～」を発行しているが、利用者の顔写真の掲載するに当たって家族等からの承諾を得ることが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は設立されていないが、敬老の日には家族を招いて食事会を開催し、その席上において意見を聞きだしたり、家族の面会時にも意見を聞きだして運営に反映させるようにしている。外部評価のアンケート調査においては、よい点・優れている点はあるものの改善して欲しい点、気になる点は見受けられなかった。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1号館・2号館のどちらでのユニットにおいても対応できる職員を養成するため内部での異動が主で、その際は利用者にはダメージを与えないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は時を見計らって職員一人ずつ面談を行ない職員の見等を積極的に吸い上げる努力をしている。また、職員の研修においても、内部研修に関する規定を定め、それに基づき計画・実行しているほか、外部研修についても内容により積極的に参加を支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者の勉強会には積極的に参加し、情報交換に努めケアサービスの質的向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気や徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者本人が安心して落ち着いた生活ができるよう、生活歴、趣味・趣向等を参考にして、職員による声かけや家族とも相談をしながらその場の雰囲気や職員に徐々に慣れるように支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生経験豊かな人達として崇め、その生活の知恵を伝授していただくといった考えを職員が共有しており、支援する側、支援される側という意識を持たず、お互いが協働しながら穏やかな生活ができるよう場面作りや声かけがされている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを実施し、一人ひとりの希望や、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者との日ごろの生活の中で、思いや意見を聞き、ケアのあり方について職員間で話し合っている。また、家族が訪問した時には家族とも話し合い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングを徹底しており、業務日誌、介護記録、個別記録を利用し気づいたことを話し合っ、現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医院、目医者、歯医者など受診の際、移送を行っている。また、季節に応じて花見や遠足、外食にも出掛けている。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院は、24時間対応で、往診にも気軽にに応じてくれている。その為、ターミナルケアや重症の利用者への対応もできている。利用者の特別なかかりつけ医の場合は、家族に連れて行ってもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族から終末期における意見や希望をアンケートを取り、ホームとして採るべき方針を全員で共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念として「優しい介護」を掲げており、職員はプライバシーを損ねるような言葉かけはしていない。しかし、利用者で相手の誇りを傷つけるような言葉を発する利用者が見られたが、それへの職員の対応が見られなかった。	○	利用者の誇りやプライバシーを損ねるような場面について、職員の言葉使いのみならず、日々の生活の中でも検討されることが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中で、できることは手を出さずに見守りを行うようにしている。出来そうなことは、声をかけたり励ましたりしている。得意なこと、絵、習字、カラオケなど、楽しみや自信がつくように展示したり、カラオケ大会を開くなどその人らしい生活ができるよう工夫している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	給食・食配サービスを利用している。週3回はホームで調理し、利用者もできることは一緒に作業している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回入浴している。体調にあわせたり、利用者の希望にあわせ、臨機応変に対応している。夜の入浴を希望する利用者もあるが、人員体制から無理である為実施していない。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームの畑でさつま芋やじゃが芋などの栽培をしており、収穫を楽しみに作業している。収穫後は、焼き芋、干し柿作りなどもしている。また、玄関先には、1人1鉢栽培で花を育てている。また、カラオケ、ドライブ、外食などの気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は、日常的に行っている。衣料品などの買い物にも出かけた。季節に応じてコスモスや桜などの花見に車を連ねて出掛けたりしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の施錠は玄関のみしている。日中、利用者が外出しそうになった時には、むやみに止めることはせず、思いに添いながら、一緒に歩いてくるようにしている。(各館の出入り口には、ドアに小さな鐘が吊り下げられていて、職員が気付けるようにしている。)		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の自主防災組織に加盟し、協力をお願いしており、入居者とともに、防災訓練にも参加している。避難訓練は、年2回実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取については、協力医の指導の下、食事量などについて、気をつけ、介護記録に記録すると共に体重測定も、週1度実施している。水分量については配慮しているが、記録をしていない。	○	水分不足が起こらないよう、生活全体を見直し、おおまかに摂取量を把握し記録することが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、季節の花が栽培されて、1人一鉢栽培も行われている。廊下、居間、食堂など明るく清潔でゆったりした空間がある。カラオケ大会の様子が写真や利用者の墨字で紹介されていたり、絵の作品などが飾られていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使用していたものを持参していただくよう家族にお願いしており、居室によって、机、椅子、テレビ、仏壇、位牌、写真などが持ち込まれている。		